

# 2級造園技能士 県高校生初 合格

県高校生初

秋田市の金足農業高造園緑地科3年の戸嶋愛晴(なるせ)さん(18)が、県内の高校生として初めて2級造園技能士の検定に合格した。同科の和泉有紗教諭(30)も共に受験し合格。教諭と生徒の立場の違いを超え、協力して試験に向けて準備。「励まし合って乗り越えられた」と喜んでいる。

造園技能検定は、庭造りなどに関する知識と技能に関する国家資格。学科と実技の試験があり、1(上級)～3(初級)に分かれている。県職業

戸嶋愛晴さん(金足年)

能力開発協会によると、3級は合格率が高いが、2級はより専門的で高度な知識や技能が必要とされることから、高校生にとってはレベルが高くないかった。

戸嶋さんは2年生で3級に合格。「(3級で)満足していたので、2級を受けるかは迷っていた」

昨年4月、和泉教諭に2級の受験について相談。その際に掛けられた言葉が、戸嶋さんの背中を押した。「あなたなら大丈夫。先生と一緒に頑

張ろう」  
造園ではなく、草花や野菜の生産を専門としてきた和泉教諭も「同じ目標に向かう仲間ができて心強かった」と話す。

2人が特に大変だったと話すのは実技試験の対策。葉を見て樹木の種類を解答する「要素試験」では、115種を覚える必要がある。

葉の形や厚み、光沢などで見分けなければいけないという、「数が多い上、わずかな違いを覚えるのが大変だった」と戸嶋さん。2人は高校敷地内や近くの県立小泉湖公園などを回って樹木の写真を撮り、予想問題を作って違いを覚えた。

体力と精密さが求められる「作業試験」も2人にとって

は高い壁だった。課題の設計図を基に、石や竹垣、樹木や下草などをミリ単位で正確に配置することが求められる。

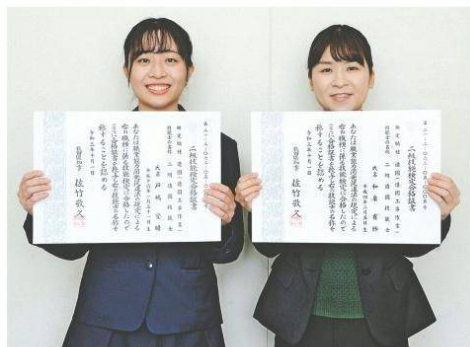
戸嶋さんは「長い竹をのこぎりで加工したり、重い石を運んだりするので体力をすごく使う。毎回へとへとになるまで練習した」と振り返る。

「もう飽きるぐらい準備してきた。やることはやり切ったね」。実技試験当日の昨年7月17日、2人はお互いを励まし合い、本番に臨んだ。翌8月の学科試験を経て、10月には2人合格の連絡が届いた。

戸嶋さんは卒業後、秋田市内の造園会社で働く。「先生と一緒に勉強できてすごく心強かった。試験を通じて得たことを生かして頑張りたい」と意気込む。

和泉教諭は「年齢や立場に関係なく、常に学び続ける姿勢を見せられたかな」と語った。(加藤広大)

## 「励まし合い乗り越えた」



2級造園技能士の合格証書を手にする戸嶋さん(左)と和泉教諭



作業試験に臨む戸嶋さん(右)と和泉教諭(金足農業高3年)